

父親の子育てに対する意識の分析

—自由記述による—

石川 洋子

I はじめに

共働きの増加や少子化、出生率の低下などの影響により、子育てに関心が向けられ、よりよき子育ての方法が模索されている。中でも、生活重視がうたわれるようになり、父親の子育てについて論議がなされるようになってきている。しかし、労働環境の変化がない限り、父親の意欲のみでは子育て参加は困難な面が多く、この両面からのアプローチが必要となろう。

子育てに対する父親の意識は、決して低くはないものであることを、母親の子育て意識と比較しながら発表した(第45回保育学会, 1992), 今回はこの父親の子育て意識に焦点をあて、今後の父親の子育て参加の方向性を探ることを目的とし分析検討を試みたのでここに報告する。

II 研究方法および研究対象

父親の子育てに対する関心度を探ることと、その子育ての悩みや意識を具体的に知るために、調査用紙に以下の項目について、自由に記述してもらい、回収し分析する方法をとった。

- ①生活習慣のしつけなどの面で困っていることについて
- ②身体の発育や病気の面で困っていることについて
- ③現在の父親の子育てについて
- ④今後の父親の子育ての方向性について

研究対象は、東京、神奈川在住の0歳-6歳の乳幼児を持つ父親87名。子どもの年齢および両親の就労状況は、次表のとおりである。

表1 子どもの年齢

	N	%
0 歳	8	9.2
1 歳	17	19.5
2 歳	16	18.4
3 歳	11	12.6
4 歳	14	16.1
5 歳	13	14.9
6 歳	8	9.2
合計	87	100.0

表2 両親の就労状況

	N	%
夫のみ就労	76	87.5
共働き	5	5.7
自営業	3	3.4
不明	3	3.4
合計	87	100.0

調査時期は、1991年10月-1992年2月である。

III 結果と考察

1. 父親の子育てに対する関心について

父親の子育てに対する関心度はさまざまな方法によりはかられるが、今回は調査方法を自由記述に限定しているため、この欄への回答状況を一つの手がかりとしてみた。

表3, 表4は「子育てで困っていること」と、「子育て参加に対する自己評価」への回答率である。この数値のみで父親の関心度を論ずることはできないが、決して低いものではなかった。特に、父親としての子育て参加の状況に対する回答には、さまざまな記述が見られ、文字を通しての本音も聞かれたように思われる。

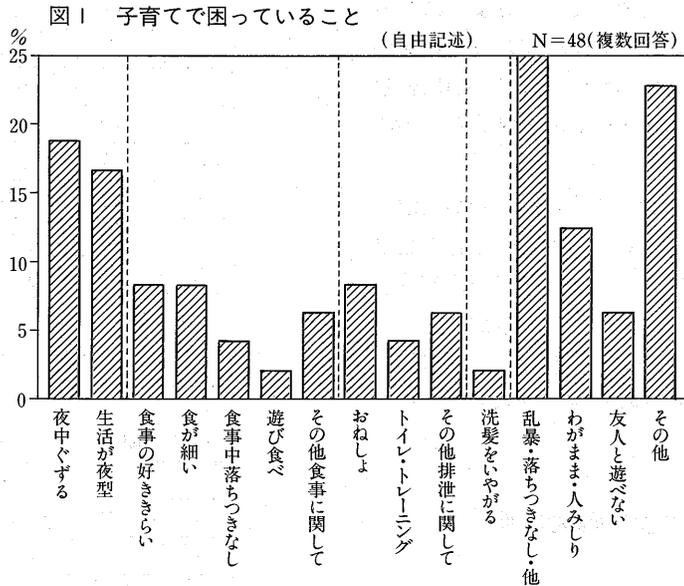
ただし、全く記述の見られない父親もあり、これらの父親たちの本音を探るには、面接調査などきめの細かいアプローチが必要となろう。

表3 「子育てで困っていること」の回答率

	N	%
回答あり	48	55.2
回答なし	39	44.8
合計	87	100.0

表4 「自分の子育て参加について」の回答率

	N	%
回答あり	81	93.1
回答なし	6	6.9
合計	87	100.0



2 子育ての悩みについて

子育ての悩みとして、自由記述の中であげられたものをまとめたものが、図1である。

「夜中にぐずる」など基本的な生活習慣の中の睡眠に関するものが頻度としては一番高く、食事の悩みがこれに次ぐものであった。これらの数値は、母親と比較して(保育学会, 1992)睡眠に関するもののみ高い結果であったが、その他の悩みの傾向はほぼ同じ様相であった。

また基本的な生活習慣のしつけについてのみ年齢別に見てみたものが図2である。睡眠についての悩みは0歳に突出しており、食事に関するものは1歳から6歳までにわたっている。排泄に関するものは、2歳から4歳がピークとなっている。

前述の図1にあげられた事項を年齢別に見たものが図3である。行動上の問題としては2歳と5歳が高くなっていたが、2歳では、

図2 子育てで困っていること(基本的な生活習慣について)

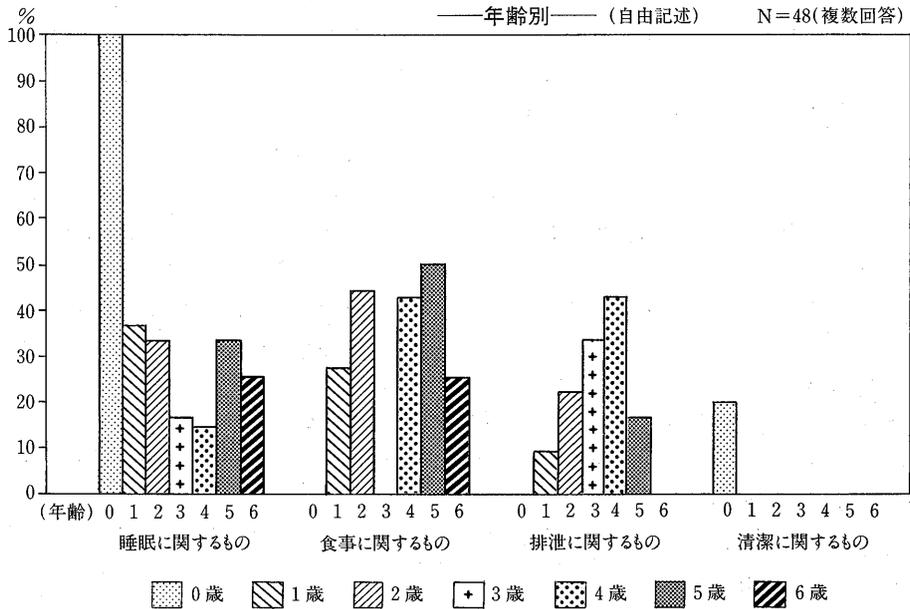
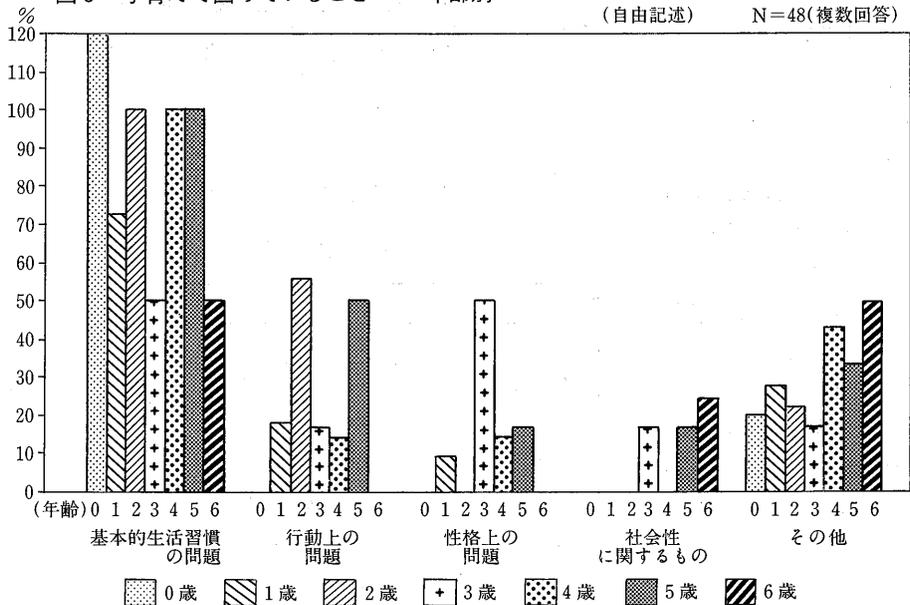


図3 子育てで困っていること ——年齢別——



他の子どもを突き飛ばす、落ちつきがない、家にこもりがち、他の子のおもちゃを欲しがるといふなどがあげられていた。5歳になると、後片付けをしない、友人の家からなかなか帰れないなどがあり、年齢別な特徴がとらえられていた。

性格上の問題として3歳で多かったものはおとなしい、人みしり、親から離れられないなどであった。

その他としてあげられたものは次のようなものである。

- ・同世代の子どもが少ない
- ・子どもの友人の顔と名前が一致しない
- ・我が子を他の子と比較してしまう
- ・保育園からの帰りが遅く近所の子と遊ぶ機会が少ない
- ・子どもの数が少なくさびしい

3 子育て参加の状況と自己評価

父親たちが子育てにどの位参加をしているのか、その内容をやはり自由記述形式で尋ねた結果をまとめたものが図4である。休日に遊ぶ、入浴などが主であり、子どもの年齢による違いはあまり見られなかった。

この子育て参加の状況をどう思うかを尋ねた結果が、表5、図5である。「参加している方」としているものが58.1%、「参加していない方」としたものが41.9%という割合であった。あくまでも自己評価

であり実際の参加の程度は不明であるが、全体としては子育てに参加しようとする姿勢は見いだせるように思われた。具体的には次のようなものが回答されている。

〈参加している〉

- ・母と同等に参加
- ・母親と同じかそれ以上に接していないと父親の印象が薄くなると思ひ
- ・当然の義務
- ・時間の許す限り一緒に過ごす

〈参加していない〉

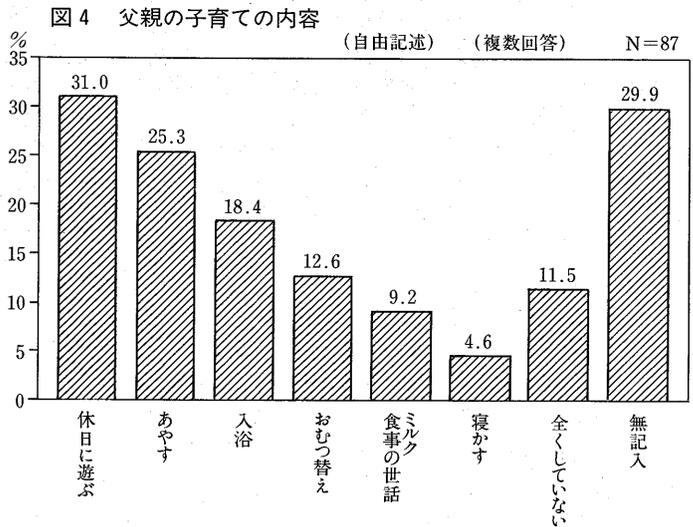


表5 子育て参加について

		%	
参加している	よく参加している	11.1	} 58.1
	ふつう	23.5	
	努力している	23.5	
参加していない	もっと参加したい	9.9	} 41.9
	これ以上無理	14.8	
	母親まかせ	8.6	
	これでいい	7.4	
	ダメな父親	1.2	
合計		100.0	100.0

- ・母親にまかせっぱなし
- ・もう少しやらなければと反省
- ・夫は仕事に精を出すべき

参加をしていないというものの中にも、労働条件などの変化がない限りこれ以上の参加は無理(14.8%)、労働条件が変わればもっと参加したい(9.9%)など、子育てに対して積極的な意識を持つものが少なくなかった。

しかし一方、子育てにはあまりタッチしないと言い切っているものも、合わせて17%程いる結果であった。

子育て参加の状況に関しては、父親の職業との関連が考えられる。共働き家庭においては父親たちも子育てにその多くが参加している。事例は少ないのであるが、次のような回答がなされている。

〈共働き家庭〉

- ・非常によく参加させられている
- ・父母が同じ位すべき
- ・子どもの世話はほとんどしている

また自営業の父親たちも割合に子育て参加がなされているようであった。

〈自営業〉

- ・家にいる時間が多いので自然のままに参加、今の状態で満足
- ・接する時間はあるが長くはとれないので寂しい

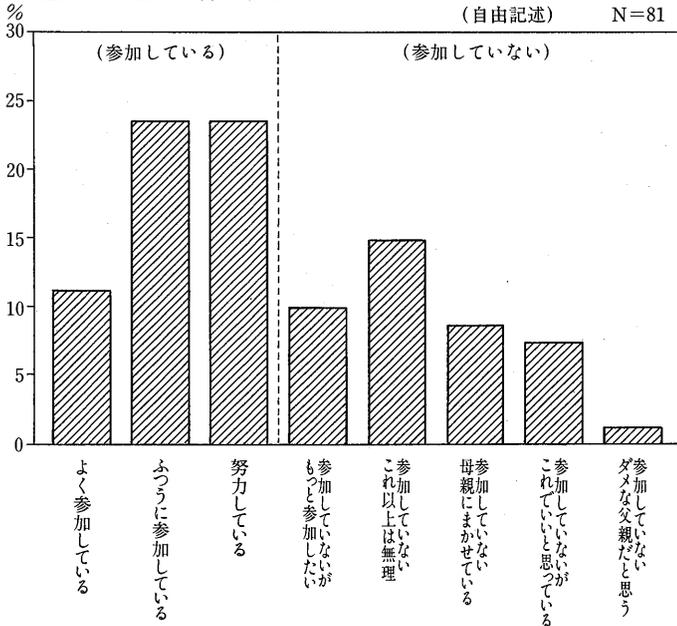
父親たちの子育てに対する個人的な考え方にもよるのであろうが、このような共働き家庭や自営業の父親たちの事例を見ると、労働環境を整えることにより、子育てへの参加がすすむ下地はあるものと言えるのではないだろうか。

サラリーマンの父親においても、

- ・世話の分担はできるだけしたい
- ・時間があれば分担すべき
- ・半々が妥当
- ・小さいときはできるだけ思い出を作っておきたい

などの意見も決して少数派ではないものであった。子育ては母親に任せるといった考え方をすることが予想外に少なかったことを考え合わせると、父親の子育てへの意識も動きつつあるように思われるのである。

図5 自己の子育て参加について



4 今後の子育て参加の動向について

今後の父親の子育て参加がどうなるかを尋ねた結果が表6、図6である。やはり自由記述をしてもらったものであるが、参加の方向に変わるとしたものが46.2%、現状と変わらないとするものが21.8%であった。両者の具体的意見は次のよ

うなものである。

〈参加の方向に変わる〉

- ・より子どもに手をかける方向に進むので父親の参加も進む
- ・週休2日がすすめば
- ・家庭に時間が増え、父の役割も増える
- ・兄弟数が減り、父親も兄弟のような接し方に
- ・男は仕事、女は家庭の考え方が少なくなり、父親も家庭に重点をおくようになる
- ・若い世代では半々に
- ・共働きが多くなり、協力して子育てにあたるようになる
- ・子どもとのコミュニケーションを最優先にしていく
- ・父の育った環境、時代により、さまざまな子育てがでてくる

〈現状と変わらない〉

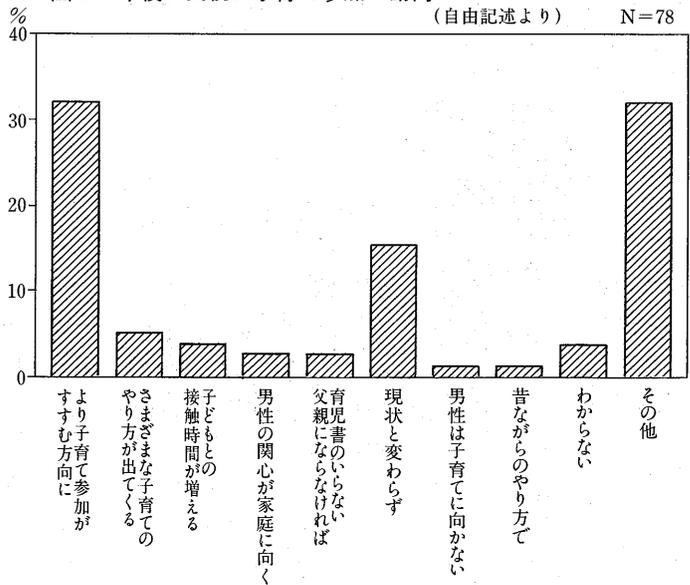
- ・社会（企業）全体で労働条件を改善しない限り、意識改革だけでは進歩しない
- ・仕事に余裕が与えられず、家が遠い今の現状が改善されない限り、変化なし
- ・将来においても、子育ては男性に向いていない
- ・昔ながらの、父親の背中を見せるようなやり方がよい

これらの意見の多さに比して、父親たちの声は一般には聞こえてこないようである。子育て参加の意向を父親たちが言い出しにくいものであるならば、子育てに関して個人の選択がしやすい状況を作ることも必要と言えるのではないだろうか。

表6 今後の父親の子育て参加の動向

		%	合計
変わる	子育て参加の方向に	32.1	46.2
	さまざまな子育てが	5.1	
	子供との時間が増える	3.8	
	男の関心が家庭に	2.6	
	育児書のいらない父に	2.6	
変わらない	現状と変わらず	15.4	21.8
	男性は子育てに向かず	1.3	
	昔ながらのやり方で	1.3	
	わからない	3.8	
	その他	32.0	
	合計	100.0	100.0

図6 今後の父親の子育て参加の動向



以上、子育て参加を歓迎する意見が多く見られたが、

また最近、余暇や遊びについても関心が払われるようになってきている。父親と子どもが接する機会も、遊びを通してということも多いであろう。本研究では、主に子育てにおいて困っていることという視点で見えてきたが、今後は「遊び」の視点からも父親の子育て参加を検討していくことを課題としたい。

IV まとめ

父親の子育てに対する意識を分析研究するために、乳幼児を持つ父親87名に、自由記述による調査を実施した。

父親の子育てに対する関心度を、自由記述調査表への記入状況から見ると、決して低いものではなく、記述の内容もさまざまなものが見られた。

子育ての悩みについては、基本的な生活習慣の睡眠に関するものがもっとも高い頻度であげられ、次が食事に関するものであった。またその他、他の子どもを突き飛ばす、落ちつきがない、友人の家から帰れないなど、その年齢に特徴的なものがあげられていた。また同世代の子どもが少ないなど、時代を反映したと思われる悩みも出されている。

子育て参加の内容では、「休日に遊ぶ」「入

浴させる」などが多かった。自己の子育て参加をどう思うか尋ねたところ、参加している方としたものが58.1%おり、全体的にも子育てに参加しようとする姿勢が見いだせるように思われた。現在参加していないとするものの中にも、労働条件が変われば参加したいとするものがあり、子育ては母親の仕事と割り切るものは、予想外に少ない結果であった。

子育て参加には父親の職業との関連が考えられ、共働き家庭や自営業にあつては、よく子育てがなされているようである。労働環境を整えることにより、子育て参加がすすむ下地はあるものと言えるように思われる。

今後の子育ての動向についても、より参加の方向に進むとするものが多い結果であった。

本調査研究に記されたような父親たちの子育てに対する意見は、一般にはあまり聞こえてこないもののように思われる。しかしこのような意識を持っているのであれば、父親が個人的な意向で子育ての方法を選択できるような状況を作っていくことは必要のように思われた。

〈謝辞〉本研究を行うにあたりご協力いただいた方々に、厚く御礼申し上げます。